項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 １．理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して地域の中で尊厳のある生活が送れるように支援することを理念としている。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	廊下、事務所には理念を掲示して常にミーティングなどで実践に向けて話し合いをしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議を通じ家族や地域の方の参加でより一層理解してもらえるよう取り組んでいる。 ２～３ヶ月に一度ホームだよりを発行し近隣に掲示してもらうなどして地域の方がみじかに感じてもらえるようにしている。		
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の人は野菜作りのアドバイスをしてくれたり、畑耕し、冬季の大雪などのときは除雪等も手伝ってもらえる。 又畑で出来た野菜なども気軽に食べてもらえるような付き合いをしている。	○	ホームでのイベント等のときは隣近所の方が気軽に参加できるようにする。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会への加入と地域の運動会への参加、ボランテァの慰問、町内の商店へ買い物へ行く等地元の方と交流をもつよう努めている。	○	老人会への参加をして交流をもてるようにしていきたい。 自治会の子供１１０番の家の役目をしている。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業者が医師であり地域の医師会の会長なので利用者の健康管理はもちろん、地域の医療にも貢献している。	○	人材育成の貢献に実習生の受け入れも積極的に行っている。

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は全員で取り組み課題に挙がった項目や評価結果を踏まえて運営推進会議開催や、他事業所の学習会参加、外食や買い物ツアーを実施するなど改善に努めている。	○	評価結果を全員に伝え又廊下に掲示していつでも見れるようにしている。
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で出された意見や要望について話し合う場をもちサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域のケア会議への参加とことあるごとに相談、指導を受けている。　又事業者は町の介護認定審査会の委員も担っているので密な交流をもっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度が必要なケースに至っていないが制度を全員が学ぶ機会を持てるようにする。	○	研修会への参加。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	新聞、テレビ等の報道があるたびミーティングで個々の仕事を振り返り虐待にあたらないか反省の機会をもうけるようにしている。	○	何が虐待と結びつくのか反省と勉強会を開く。
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている。	利用者、家族の面接時と入居時に説明をしている。又、重度化や看取りについても利用者、家族の希望を聞き話し合うことで不安事項の解消、理解していただけるよう努めている。	○	事業者が医師であるため重度化、看取りについては万全の体制とおもわれる。

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の関わりの中で不満、苦情の要素を探り出し解決にむけて家族と相談する。	○	家族、出先機関の方の訪問時職員は席をはずすように配慮している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族面会時に健康状態、日々の暮らしぶり、又金銭の管理状況を領収書を添付して報告している。遠方の方には手紙と写真も添えて送付している。	○	あさひ便りを発刊して家族へ日々の様子がわかる様に配布している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族訪問時に話をする機会を設けたり運営推進会議など公の場で家族代表として参加してもらい意見、不満、苦情を発言していただいている。	○	家族会の開催をしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者はおりにふれ来設し利用者の様子や職員の要望を聞き対応している。又職員間での意見や提案は毎朝の朝礼や休憩時間で話し合いその都度反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	曜日ごとの業務や行事等充分な人員が確保できるようにローテーションを組んでいる。	○	管理者は状況に応じた対応ができるように通常のシフトにいれていないため夜間の対応や利用者の状況の変化に応じた体制がとれている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は最小限に抑えれるように配慮して利用者へのかかわりは馴染みの職員がかかわれるようなシフトを組みダメージを少なくする。	○	退職された職員の再就職のおさそいをする。

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	他事業所の学習会や研修等多くの職員が積極的に受講できるよう勤務体制を調整している。又研修の成果は未受講者も共有できるようにテキストの回覧、報告の機会を設け介護の質の向上を図っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	関連の事業所や同時期に開所した事業所などと学習会や交流をもつようにしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員のストレスや悩みを把握し気分転換を図れる機会を作れる様にしている。又職員一人一人の性格を理解し職員同士の人間関係を把握する様努めている。	○	親睦会、食事会などで日頃の不満、困りごと等を話し合い解決していく。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は職員が向上心をもって働けるよう職能評価を行い職員の資格取得に向けた支援を行い職場で活かせるように努めている。		
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者の生活状況を事前に把握し本人の求めている事や不安を理解しようと工夫している。　又職員全員が本人の心身の状態や思いに向き合い受け入れられるような関係作りに努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用前に運営者と管理者が家族と面談を行い家族からの要望、不安要因に対し前向きに対応できるよう、よく話し合っている。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時本人や家族の思い状況を確認し、信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。 早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては地域包括支援センターや他事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族がホームに見学に来てもらいスタッフと顔なじみになってもらい安心していただく。　やむおえずすぐ利用になった場合関係者に来てもらうなど不安にさせないように心掛けている。	○	本人の馴染みの家具、布団、ベット等で落ち着ける場にしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	普段からスタッフが利用者からいたわり、励まし等の場面が多く、支援する側、される側という意識を持たずお互いが協働しながら和やかな生活が出来るように場面作りや声掛けをしている。	○	相手がどのように感じているか、常に日々の観察で状況を把握する。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との情報交換を密に行い家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気ずきの情報共有に努め本人を一緒に支える家族と一体になり支援している。	○	家族会の開催をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の本人への思い、本人の家族への思い、状況を見極めながら外出や外泊を勧めたり、行事に家族を誘ったりしながらより良い関係の継続につとめている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	社会とのつながりについて把握し可能な限り継続できるように支援している。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎日のお茶の時間や食事の時間に職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動等を通して利用者同士が孤立せず円滑に関係が出来るように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用が終了した家族の方が時折訪ねてきて色々な援助もしていただいている。又同一事業所のホームに転居された利用者もホーム内の行事に行き来している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で言葉、表情などから真意を推し測り可能な限り希望に添えるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語りや家族、知人等の訪問時など少しずつ把握に努めている。 又プライバシーへの配慮を忘れないようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活、心理面の視点や出来ないことよりできる事に注目し本人の全体像を把握している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	利用者が自分らしく暮らせるように本人、家族の要望を聞き事業所以外の関係者の意見を含めて課題となる事をスタッフ全員で話し必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画の作成に活かしている。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化に応じて短期間においても随時見直しを行い新たな介護計画を作成する。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意し食事、水分量、排泄等身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。　すべての職員が確認できるようにしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて受診、通院の援助は柔軟に対応して本人、家族の負担の軽減に努めている。		医療連携体制を活して受診や入院の回避で負担の軽減をはかっている。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○　地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう警察、消防、公区の催し物を通して意見交換する機会を設けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の希望に応じて出張美容室、洋服の移動販売、ヤクルトなどの訪問販売、隣町のスーパーへの買い物等を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	成年後見制度が必要なケースに至っていないが制度を全員が学ぶ機会を持てるようにする。又運営推進会議に職員が参加してこれをきっかけに関係が強化されている。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。　又受診や通院は本人やご家族の希望に応じて対応している。 基本的にはご家族同行の受診となっているが不可能なときは職員が代行しており利用契約時にその旨を説明し同意をえている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	事業者が十勝認知症を考える会の理事であるのと医師なので随時指導、助言をしてくれる。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所が看護師の配置の形態なので医師との連携も密にとれる体制がとられている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者の入院時は常に病院関係者と密に連絡をとりあい早期退院に向け情報交換や相談し安心して帰設できるような体勢をとっている。又協力病院とは普段から連携を取り合っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合と終末期の方針は初回アセスメントのときに本人、家族の意向を聞き主治医と職員が意向を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い利用者が安心して終末期を過ごしていけるように取り組んでいる。急変時はすぐ対応していただけるよう医療機関とも密に連携をはかり対応している。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	別な所へ移り住む場合これまでの生活環境の継続性が損なわれないように支援の内容、注意が必要な点について情報提供してきめ細かな連携を心がけている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し言葉掛けや対応に配慮している。	○	プライバシー尊重の徹底。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	食べもの、飲みものなど些細なことでも本人が決める場面をつくり複数の選択肢を提案して利用者自身に決定してもらっている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活の流れを尊重しそれに応じて柔軟に対応している。　又その日に本人がしたいと思っていることを大切にし、出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	一人ひとりの個性、希望に応じて髪型、服装などのみだしなみやおしゃれを支援している。　着替えの際には複数の衣服を見せて本人の着たいものを選んでいただいている。 又家族、本人の望む美容室に連れて行ったり、出張美容サービスの利用も出来るように努めている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と職員が一緒に料理の下準備をしている。　又利用者の好みや苦手なものを踏まえた献立を工夫し、食事への喜びや楽しみを持ってもらえるように配慮している。	○	利用者と共に野菜を作り又収穫も一緒にして食事に取り入れている。

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者一人ひとりの嗜好物を理解して本人の望む飲み物、菓子等個々に買い希望時に楽しんでいただけるように配慮している。たばこは館内禁煙としているので家族、利用者に納得していただいている。	○	日常的な買い物の支援。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者個々の排泄パターンを把握し周囲への気配りをしながら排泄の自立に向けた支援をしている。	○	オムツの使用を減らして排泄自立を支援する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回の入浴を設定しており本人の習慣や好みに配慮しながら入浴していたさいている。 又その日の気分で拒否があった際には言葉掛けや対応の工夫をしているが無理強いはせずにその人その人のタイミングをみて入浴を楽しめるようにしている。	○	入浴困難な利用者には清拭だけでなく浴室でシャワーを浴びてもらう。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動を促しレクレーション等を行うことで生活リズムを整える様に努めている。夜間不眠時暖かい飲み物を飲みお喋りするなどの配慮をしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりにあった楽しみ、役割 （掃除、食器洗い、食器拭き）をしていただきそれぞれの力を活かして張り合いを持って生活をしてもらう。又それが義務となって苦痛に感じないように無理強いはしないようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者が自分でお金を使い買い物が楽しめるようにスーパー等大型店で買い物をしていただいたりフリーマーケットを開催して買い物をしていただく支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節を肌で感じてもらえるよう散歩や買い物を本人の希望に応じて行っている。 又散歩ができない利用者には外気浴で畑の花等を見て楽しんでもらっている。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	イチゴ狩り、町内の運動会、同一事業所で開催するお祭りなどに出かけている。又家族の都合を聞き墓参りなどの外出の支援をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の希望により家族、姉妹、知人への電話をしてゆっくりと話をしてもらっている。又、手紙などは投函してあげるなどしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族が気軽で来やすい雰囲気作りを心がけている。　訪問時間は定めておらず宿泊、食事も提供できるようにし利用者とゆったりした時間を過ごしてもらえるようにしている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々の申し送りなどでその日の利用者の状態を把握し車椅子でも身体拘束をしなくても落下事故などが起きないように見守り方、介助方法を配慮している。居室内では頻回な訪室で事故防止に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は深夜のみ施錠しているがそれ以外は開錠されている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者と同じ空間で作業をおこないながらさりげなく全員の状況を把握するようつとめている。　又居室で過ごす利用者には時間ごとに声掛けしたりお話をしに行ったりしている。　夜勤の職員も常時リビングにいて24時間利用者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況変化によって保管管理が必要なものや、利用者が使うとき見守りが必要なものに分けて管理している。又代用品などがないか申し送りなどで検討をし工夫している。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書に記録し朝礼で事故防止できる改善策を話し合っている。　薬の変更があった場合は全員が把握できるよう申し送りを徹底している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全職員が救急救命法の講習を受講しておりいざという時に対処できるように訓練している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を経て避難訓練や消火器の使い方などを定期的に行っている。又自治会ではホーム前の駐車場が避難場所に指定され災害時の炊き出し班の任務をまかされている。非常階段の清掃もこまめに行っている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	家族に自由な暮らしの大切さと事業所の取り組みを丁寧に説明し理解を得られるように努めている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握しており体調、表情の変化を見逃さないようバイタルチエックを行いその都度変化があればドクターへ報告し指示を仰ぐ。病院受診時は家族にも報告して同行してもらう。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の記録簿には薬の情報ががファイルされており確認出来るようしている。 服薬時は本人に手渡しきちんと服用できている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食材や乳製品を採りいれている。　外気浴、散歩等身体を動かす機会を作り便秘の改善に取り組んでいる。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後のケアや就寝時には義歯を洗浄剤になどで清潔に保ちうがい、歯磨きを怠らないようにしている。	○	協力病院の歯科医師により時々往診をしていただき口腔ケアのアドバイスを受け実践している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量の記録をして個々の状態に合わせて、おかゆ、副菜はきざみ食、ミキサー食、嚥下補助剤などで一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等）	定期的な血液検査とインフルエンザの予防接種もおこなっている。又手洗いの励行と来客者にも玄関に消毒液を置き予防に徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材の賞味期限を常に確認するように努め、ふきん、調理用具等は当番を決め毎日つけおき除菌を行っている。冷蔵庫、冷凍庫の食材の点検を頻繁に行っている。 生ものは鮮度の良いものを選びすぐに調理して使うようにしている。		
	２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
	（1）居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夏は歩道、玄関前に花壇を作り道行く人の目を楽しませている。　又玄関横にテーブルを置いていつでも休めるようにしている。　又花のない冬場はクリスマスのイルミネーションで近隣の方や来設される方に楽しんでもらえるように工夫している。 施設裏のスペースにはコスモス、ひまわり等が一面に咲き国道を行く車の窓からも一望でき評判になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに観葉植物、季節の花を置くようにして落ち着ける空間作りを心がけています。、又、聴きなれた音楽（民謡、童謡、演歌・・・）などを一緒に口ずさんでいる。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各階に長椅子を設置して自由に横になったり座るなどして利用者どうしのコミニケーションが取れるように工夫している。又リビングの席は固定せず思い思いの席でお茶や食事ができるように工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や布団などを家族が選び持ち込まれている。居室には家族の写真や本、ぬいぐるみ、植物などその人その人の個性のある部屋にしてある。		
84	○換気·空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日天気、気温にあわせてこまめに調整をし、扇風機、加湿器、カーテンなど使用しより良い空調を心がけている。（1日数回部屋の空気の入れ替え、トイレの換気）		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活空間で転倒につながる原因がないか常にチェツクして利用者の安全と自立を意識した居住空間を作っている。リビングの椅子の高さを利用者の使いやすい高さに調整、また廊下、階段、トイレ、浴室には手摺を設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	掃除、食器洗い、食器拭き等できることをしていただきそれぞれの力を活かした役割で張り合いを持って生活をしてもらう。又それが義務となって苦痛に感じないように無理強いはしないようにしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑ではいちご、野菜を作り利用者と共に手入れ収穫を楽しんでいる。　又桜の木を寄贈していただき来年にはお花見が出来るのではと楽しみにしている。 玄関には明るい雰囲気になるように花を生けたりプランターを置いている。	○	外気浴、散歩等で気分転換をはかり玄関前にテーブルを置き時折昼食、おやつ時に活用している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	職員は利用者とかかわりのなかで理解している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ○ ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	毎日のお茶の時間やレク等の時に持つようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない	居室で自分の好きなことをしたりホールでテレビや音楽を聴いたりする。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ○ ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ○ ④ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない	事業者が医師なので往診、受診も家族の負担がなく対応できる。
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ○ ②家族の２／３くらい ③家族の１／３くらい ④ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○ ③たまに ④ほとんどない	

Ｖ．サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている　○ ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が　○ ②職員の２／3くらいが ③職員の１／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２／3くらいが　○ ③利用者の１／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２／3くらいが　○ ③家族等の１／3くらいが ④ほとんどいない